

天竜林業高校成績改ざん事件

新証拠！現金授受は客観的に不可能

元々20万円の増収賄はなかった

みなさんは「天竜林業高校成績改ざん事件」をご存じでしょうか？

2006年に大学入試のため2人の生徒の調査書の成績が改ざんされたことを、当時の校長であった北川好伸さんの指示によるものであると認定し、有罪とした事件です。

この事件は2人の生徒のうち1人が元天竜市長・中谷良作氏の孫だったことから、警察が「金品の受け渡しがあったに違いない」と勝手に贈収賄事件を作り上げました。中谷氏の自白のみが証拠となり、裁判で確定しました。しかし、その後中谷氏はウソの自白を強要されたことを北川さんに謝罪して、2020年に自ら再審請求を申し立てました。

元市長は銀行で保険の契約中だった

弁護団の調査によれば、裁判で中谷氏が北川さんに校長室で現金を渡したとされる時刻に、市内の「スルガ銀行」で保険の契約を行っていたという手続き書類が発見されました。

2回目の現金授受があったとされる時刻に中谷氏は違う場所にいたことになり、増収賄そのものがなかったこととなります。

不思議な目撃証言

1回目の現金授受があったとされる日に、高校のある教員が「事務室でコピー作業をしていた時、何気なく振り向くと中谷氏が校長室から出てきて玄関に向かって歩く後ろ姿を窓越しに見ました」と証言しましたが、専門家の調査で、教員の位置からは玄関に向かう人の姿は、「構造上」みることができないことが明らかとなりました。

この事件に北川さんは関与していなかったのに、教員らが生徒の調査書の成績を改ざんしたことが、内部告発で明らかになりました。それを逃れるために、責任を北川さんになすりつけるため、警察が証拠と証言を作り上げたものだったことは明確です。



再審請求中の北川好伸さん

みなさまへ

いつも励ましのお言葉をお寄せくださり、ありがとうございます。

2023年10月に第二次再審請求を静岡地裁浜松支部に申し立てました。事件に巻き込まれる前までの私の六十年の人生は、平凡なひとりの人間として、人さまに迷惑をかけないように、ささやかに、つつましく生きてきた人生だったと思っています。

16年前、あらぬ疑いをかけられ、確たる証拠もないのに「有罪だ！」と裁かれ、第一次の再審請求も一顧だにされずに棄却され、悪人の烙印を押されてしまった人間が「このまま朽ち果てたくない」と、願い思う気持ちはごく当たり前のこと。第二次の再審請求は、特段の思いがあつてのことではなく、普通の人間の自然な行動なのだから粛々と挑め、と自分に言い聞かせております。

みなさまのお力をもって、裁判所を動かしていただきたく、お願いいたします。再審の扉はあっても、その扉は開かない構造になっている……。

しかし、みなさまのお力の前には「開かずの扉」はありません。よろしくお願い申し上げます。

静岡地裁浜松支部で再審開始を勝ち取るために、署名へのご協力をお願いします

連絡先 北川好伸さんを支える愛知の会 事務局長 片桐康子

〒477-0032 愛知県東海市加木屋町仲新田63 TEL0562-35-4228

2024年5月



救援新聞
1958年6月10日
第三種郵便物認可